

桜島のある風景 MESSAGE

はしのえみ
HASHINO Emi



プロフィール

1973年、鹿児島生まれの女優、タレント。鹿児島県立松陽高等学校1年修了後、単身上京。萩本欽一プロデュースの演劇集団「欽ちゃん劇団」出身。明るくコミカルなキャラクターを活かして「王様のブランチ」(TBS)や「笑っていいとも!」(CX)から子供番組の「ポンキッキーズ21」(CX)まで幅広く活躍する。ブログでは事あるごとに地元鹿児島の話題を発信。「プチ スマイル」(アスキー)や「はしの・はしやすめ」(ワニブックス)のエッセイ、「ハートのおくりもの」(アスラン書房)の絵本も手掛ける。

普通に桜島は、家からも学校からも見えていました。私が子供の時も、今ほどではないですが活発でした。当たり前のように噴火して、風向きによっては灰が降ってきました。鹿児島に住んでいると桜島は生活の一部で、当たり前と感じます。校庭での部活中、髪の毛が灰だらけでゴワゴワになっても、運動するのは当たり前でした。降灰がひどい時は、雨みたいにかさねとした音や硫黄っぽい臭いもします。そんな時はみんな傘をさします。

東京に来てから「桜島って生きている山なんだなあ」と実感するようになりました。「鹿児島って空から灰が降って来るんでしょ?」とか言われると、「そうか、普通は空から灰は降って来ないよなあ」と改めて気づきました。

雪国の人たちの除雪に比べれば、鹿児島の灰はそこまで大変ではないですが、やはり灰が降ったら掃除しますし、灰を捨てる専用の^{こくはいぶくろ}克灰袋と言うのも配られています。学校では夏のプール時期は大変でした。私たちの学校では避難訓練もなかったですが、桜島の学校では通学時にヘルメットを被っていました。

噴火すると迷惑そうに「うわあ、また灰が来るよ☹️」と言う会話がよく聞かれますが、例えば結婚式の最中にドォーン

と噴火すると、「おおー、祝ってくれているよ☺️」と勝手に解釈したりします。私が鹿児島で結婚式を挙げた時も桜島は祝ってくれましたし、兄の時も噴火して、みんなで盛り上がっていました。降灰で迷惑な時もありますが、都合に合わせて「縁起がいい」みたいに、良いように捉えています。

桜島は鹿児島の人たちの誇りだと思います。薩摩半島の先には薩摩富士とも呼ばれる開聞岳もありますが、やはり桜島の方が雄大で、市内に住んでいる人にとってはとても身近なシンボルです。活火山の隣にいたのに、市内の銭湯のほとんどが天然温泉というのも東京に来るまで知りませんでした。それって贅沢なことで、子供の時にはそのありがたさに気付いていませんでした。

小学校では妙円寺遠行と呼ばれるものがありました。関ヶ原の戦いで敵中突破した薩摩藩士たちの武勇を偲ぶ行事らしいです。学校から伊集院町にある妙円寺までの約20kmを、当時と同じようにおにぎりを持って歩きます。「妙円寺遠行の歌」というのがあって、それを歌いながら5、6年生が歩きます。その時はあまり意味が分からなかったのですが、大人になってから、地元の歴史に興味が出てきて調べました。維新ふるさと館などに行くと、西郷さんの義妹のおばあちゃんがVTRで話しています。西郷さんについて語っているのですが、ものすごい鹿児島弁で、今の私たちが使う言葉とは違うので、あまり意味が分かりません。鹿児島弁も、おばあちゃんとかの時代になると今とだいぶ違って

います。友達とか親せきを見る限り、鹿児島の人はおおらかでマ

イペースだと思います。歩く速度も東京とはぜんぜん違い、鹿児島の方がずっと遅いです。また鹿児島時間と言うのがあって、沖縄時間みたいなもので、集合時間にはだいたいみんな遅れます。気候が暖かいからおおらかなのでしょうか。そして郷土愛が強いです。東京で鹿児島出身者に会くと、初対面でも急に鹿児島弁で「あんたん鹿児島ねん?」と話しかけてきたりして、それですごく距離が縮まったりします。

鹿児島の繁華街は限られます。今は天文館に加えて鹿児島中央駅のアミュプラザの辺りがありますが、高校生の頃はまだ西鹿児島駅と言っていました。地元では西駅と言い、そこから伊集院の高校まで、1時間に1本しかないような2、3両編成の電車に乗って通っていました。駅舎も今みたいに近代的ではなく、かわいらしい木造でした。もちろん、ビルの上に観覧車なんてありませんでした。今では九州新幹線で博多まで1時間半です。九州の中でも博多はあこがれの街で、それが日帰りできる距離になったと思うとちょっと感激です。

鹿児島は降灰があるなど大変な面が多そうに見えますが、アビール下手なだけで、実は良いものがいろいろとそろっています。気候は温暖で温泉もたくさんあり、食べ物は牛も、鳥も、ラーメンも、焼酎も、お茶もすごく美味しいです。そういうことを含めて、いろいろなことをもっともっと知ってもらいたいです。

アミュプラザ鹿児島の大観覧車「アミュラン」
【写真：佐々木勝】